



袖ひぢてむすびし水のこほれるを  
春立つ今日の風やとくらむ

## 2月のできごと

- 3日 ~ 節分(豆まき)  
(各事業所)
- 14日 誕生会(通所・元亀)
- 12・26日 書道教室(風和)
- 4・18日 書道教室(元亀)
- 9日 陶芸教室(通所)

## 3月の行事

- 1日 ~ ひな祭り  
(各事業所日にちが違います。)
- 14日 誕生会(通所・元亀)
- 15日 歌の発表会(風和)
- 9日 陶芸教室(通所)
- 12・26日 書道教室(風和)
- 4・18日 書道教室(元亀)

<古今和歌集 紀貫之>  
夏の暑い日に袖を濡らしながらすくった水が、冬の間氷ってしまったのを、立春の日である今日の風が解かしているのだろうか。

## ★2月生まれの皆様、お誕生日おめでとうございます★



今回は元亀の里・神近 ツタ様にお話を伺いました。

「一番よか、楽しみばい」と、布団の中からクリクリした眼を覗かせているツタさん。時間があると部屋に戻って布団に潜り込んでおられる。そんなツタさんは、大正12年に琴海町長浦で3人姉妹の長女として生まれる。家は農業を営み、米・芋・麦の栽培や炭焼きなどの山仕事を行っていた。子供の頃から家を手伝い、時には手毬つきやお手玉・鬼ごっこなどをして遊んでいた。姉妹は喧嘩をした記憶がないほど仲が良かったそうだ。父や母も優しく「みんな気性の優しくったけんやろう」と話された。いつもニコニコと穏やかに過ごされているツタさんを見ると、家族の優しさを受けて育てられたのが伺える。

14歳の頃から奉公に出ることとなり、女中として手伝いをしていた。奉公先の暮らしぶりは豊かで、実家ではあまり口にしなかった肉や見たことのない果物・お菓子などを食べることができたそうだ。奉公から戻ると、周囲の人々から「ツタは、えらい太うなって帰ってきたばい」と言われていた。奉公先でも他の女中仲間と楽しく過ごせ、あまり辛い思いはしたことがなかったとのこと。今でも時々、女中仲間との楽しかった頃を思い出し、懐かしんでいるそうだ。奉公から帰ると、実家の手伝いをしながら過ごしていた。28歳の頃、幼馴染で1つ下の男性と結婚。3人の子供に恵まれた。「みんないい子で、ほんと手のかからんやった」「今もようしてくれるとばい」と子供たちを嬉しそうに自慢されていた。

ミカンや米を栽培しながら生活していたが、働くのが好きで苦には思わなかったそうだ。ご主人も「ツタはよう辛抱して働いてくれたばい」と話される。夫婦喧嘩もあまりしたことがないそうで、「夫は酒も飲まんし、なんも苦勞せんやった」と二人の仲の良さが伺えた。

「よう働いてきたけん、今はゆっくりするとがよか」とのこと。元亀の里に入所中だが、「何の苦勞もせんで生活できるけん楽しか、食べ物も美味しかし」また「夫とも一緒やっけん何も言うことなか」と生活を満喫されている。リハビリやレクリエーションにも毎日参加されて、「いっとき腰の痛がったばってん、たいぶん良うなってきたよ」とニコニコとされるツタさんでした。

これからも夫婦仲良くして下さい。お誕生日おめでとうございます。



# Vitality Space

バイタリティー・スペース

「Vitality」とは、生命力・活力・活気・元気・持続力等の意味があります。せいひ会を利用される皆さんの活動にはこのバイタリティーの力にあふれています。その活動を紹介するコーナーです。

## うたの時間

梅の香は うぐいす鳴きて 匂うなり 谷川エツ	春が来た 草木芽を出し うれしいな 本本 誠一	ひな祭り 弁当もって 山へ行く 今井 サヨ	年女 一年元気に 暮らしたい 酒井 ミネ
---------------------------------	----------------------------------	--------------------------------	-------------------------------

和気 河野真志	若草 田中アキ	うた 田崎キマ	人生のあきは 因村心木に ちよひふま 通所 竹下 晶子	妙月 元龜 山川 由喜男
田園 江尻 邦	晴耕雨読 二、坂喜國	春風 岩崎 和子	湖水 神近ツタ	水仙 川口 泰

**流行ってます!**

最近、編み物をしている方をよく見かけます。せいひ会のちょっとしたブームでしょうか?しかし、皆さん本当に手先が器用ですし、根気があるなあ〜と尊敬してしまいます。

 奥月 岡明子	 風和 加藤 トナ工	 風和 中澤 初子
 風和 石原 アヤ子	 通所 小幡 タミ	

## 立春大吉



節分ギャラリーへようこそ!!色んな鬼がいますね!!何故か、皆さん鬼になりたがっていませんか?  
グループホームでは恵方巻きを作った様子。そんなにいっぱい!何人分?  
元龜の里には中山郷の子どもたちが豆まきに来てくれました。口上も上手に言えましたよ。ありがとうございました♪

## \*クラスメイト\*



介護予防教室に参加されている皆さんです。今年度の教室終了の思い出に記念写真をパチリ。お体に気をつけて、いつまでもシャキシャキ♪ワイワイ♪明るく元気に過ごしてくださいね。また、遊びに来てください☆

## スター誕生!?

風和の里、喫茶コーナーでは、毎日誰かの歌声が響きます。皆さんそれぞれの十八番をセット。ご自分の点数を見てちょっと照れ笑い。100点満点が出たこともあるんですよ。皆さんも一緒にいかがですか?



「沈丁花は枯れても香し」  
(もともとよいものは、たとえそれが盛りを過ぎてしまってもねうちを失わない。)

## 編集後記



風和の里の庭に沈丁花が咲き始めました。玄関を入る前にキョロキョロニコックとする方々をよく見かけます。沈丁花が、訪れる方々に香りで挨拶しているようです。(佳)

## ケアマネの独り言

### 《羨》

大工の棟梁の家に生まれた私は、親父の弟子や大工仲間たちと毎日、夜御飯を食べていた。仕事が終わりに、家に来る大工達にかわいがられたが、親からは「挨拶は!!」と毎回、怒鳴られていた。他は別に言われることはなかったが、とにかく「挨拶」だけは2度も3度もさせられた。最後には「もうさっき言った!」と逆ギレしたのを覚えている。私の両親は「何も出来んちゃよかばってん、挨拶だけはきちんとせんか!!」と私を羨めた。大工達の夕食はまず「お茶」と呼ばれる「ビール」から始まり、その後はいろんなつまみでおのの焼酎や日本酒を飲み交わす。ペロンペロンに酔っ払った大人達と夕食を共にすることがイヤでイヤでしかなかった事を今でも覚えている。それでも送り出すときの「おやすみなさい」までキッチリと言わされていた。

今、福祉という『人』と関わる仕事をさせていただいているが、常々、気を使うこともなく、自然と挨拶ができるのは、小さい頃からの羨のお陰だと今更ながら、親に感謝している。しかし『しつけ』を『羨』と書くなんて「さすがは日本語!!」と感じた今月でした。(敏)